

館外奉仕用のものとに分けている。本館備えつけのものとしては、文献や参考図書の基本図書、郷土資料等に重点をおいている。この外、特殊資料として前年度に引き継ぎ地方行政資料の収集にもあたっている。図書館資料の中には視聴覚資料も含まれているのであるが、從来本館では視聴覚資料の収集までは及ばなかった。しかし、レコードコンサートの開催によって、奉仕活動を一步進めるために、本年度はレコードも収集することになった。館外奉仕用は青年、婦人その他一般向の図書を主とし、毎月第2火曜日に図書選定委員会を開いて選択にあたっている。

昭和35年度年間増加冊数

	購入	寄贈	編入	計
本館用				
総記	201	105	119	425
哲学	86	12	1	99
歴史	243	43	11	297
社会科学	278	165	104	547
自然科学	80	17	14	111
工学・工業	125	35	45	205
産業	72	100	38	210
芸術	107	28	1	136
語学	57	3	0	60
文学	331	10	21	362
児童	180	4	0	184
小計	1,760	522	354	2,636
館外奉仕用	2,969	35	0	3,004
計	4,729	557	354	5,640
レコード	25枚	2枚		27枚

昭和35年度 郷土資料・地方行政資料収集冊数

	郷土資料 (本館用に 含む)	地方行政資料	
		種類	冊数
総記	9	0	0
哲学	1	0	0
歴史	27	1	2
社会科学	120	101	455
自然科学	4	9	37
工学・工業	7	4	20
産業	58	54	243
芸術	10	5	25
語学	1	0	0
文学	7	1	5
小計	244	175	787
逐次刊行物 パンフレット		56	1,851
計	244	231	2,638

C 分類・目録はどのようになされているか

収集した資料は、なるべく早く、閲覧に供されなければならないが、分類・目録等が十分になされていなければ、切角の資料も死蔵されることになるので、分類および目録作業は慎重に行なっている。本年度は年間増加図書の中、本館備え付けの図書2,700冊と、旧蔵書の再整理の図書3,500冊の分類を行ない、目録カードを作成した。

目録カードは、事務用として書架目録と著者目録、閲覧用として分類目録、著者目録、書名目録を作成しているので、1冊の図書に対して5枚乃至10枚のカードを作り、前年度に引き継ぎ謄写印刷によって作業の能率化をはかっている。

D 蔵書目録の作製

昭和28年に着手した全蔵書の再整理も着々進み、本年度は自然科学・工学・産業の三部門の再整理を行なってきたが、本年度中に三部門の蔵書目録の刊行はあやぶまれるにいたったので、自然科学・工学の二部門の印刷にとどめ、産業編は切離して36年度にまわすことになった自然科学・工業の部門は、旧蔵書3,000冊を含め6,000冊の整理を12月末までに完了し、3月末に印刷が出来上がった。今までに刊行した蔵書目録はつぎのとおりである

郷土資料蔵書目録	30年 3月
蔵書目録 総記・哲学篇	31年 3月
〃 歴史篇	33年 3月
〃 社会科学篇	35年 2月
〃 自然科学・工学篇	36年 3月

E 整本はどのようになされたか

図書の利用が高まるにつれて、破損図書も多い。これを修理して、新本同様に生きかえらせて利用に供したり貴重な資料は補修して完全保存する必要がある。また、新聞、雑誌その他の逐次刊行物は、合本して保存するため、二名の技能員によって整本を行なっている。本年度中に整本されたものは、図書1,861冊、雑誌607冊、新聞274冊、その他1,463件となっている。特に本年度中に研磨機および大型縫合機が備えつけられたので作業能率が向上した。